呉密察監修　遠流台湾館編著
横澤泰夫日本語版編訳

『台湾史小事典』

中国書店　2007年　323ページ

池上　寛（いけがみ　ひろし）

台湾で総統直接選挙が初めて行われたのは，1996年のことであった。この選挙をもって，台湾は民主化を達成したといえよう。この総統選挙は社会に様々な影響を与え，なかでも教育は大きな変革をもたらした。当選した李登輝総統（当時）は選挙後に教育改革を断行し，「教育の本土化」を実行した。その最大の成果は，1997年の新学期から中学１年生に台湾の歴史，地理，社会を教える「認識臺灣」（台湾を知る）という教科を新たに設けたことであった。

この教科は，これまで教えていた歴史や地理とは正反対のものであった。従来の台湾における社会科教育は中華民国に関する歴史や地理などを教育し，台湾についてはほとんど教育してこなかったため，学生たちは台湾の歴史や地理を知らないという現状があった。このような現状を打破したのが，「教育の本土化」であった。

この教科で使用された歴史教科書は国立編譯館主編『認識臺灣――國民中學（歴史篇）――』であった。教科書の作成にあたっては，これまでの歴史ではほとんど触れられていなかった台湾の近現代史に大きく比重を置いた。そのため，1895年から1945年までの日本統治時代にもかなりのページを割くとともに，客観的な観点から記述が行われた。なお，この教科書は2000年に日本語にも翻訳され，出版されている（蔡易達・永山英樹訳『台湾を知る――台湾国民中学歴史教科書――』雄山閣出版）。

その際に，副読本としてまとめられたのが，本書であり，原著は2000年に出版された。本書は，台湾における歴史年表（西暦230年～1994年）であるとともに，主な歴史事項を説明する辞典の両方の機能を持った事典である。授業で使用できるように，簡潔に年表と項目が整理されている。

日本語訳に出版される際には，日本語版編訳者が原著にはない1995年から2006年６月までの重要な出来事を加筆し，最新の出来事まで網羅した。そのため，「小事典」とはいっているが，本書は充実した歴史事典であるといえよう。構成は，上の部分には年表が配置され，その年表では歴史的出来事の重要な人名，用語をゴシックで強調し，下の部分で人名や用語を解説するという形になっている。そのため，年表と解説事項が一目でわかるようになっている。また，この解説は見開きページで説明が終わるように配慮がされていて，読者にとっても利用しやすいようになっている。さらに，付録には各時代の地方行政区画の沿革，台湾総督および民政長官一覧，台湾政治運動の変遷図なども収録され，読者の理解の一助になっている。

ただ残念なのは，西暦と元号の表記方法が年表と用語解説の本文で違っていることである。年表では西暦が先に表記されている一方で，用語解説では元号を先に表記している。そのため，両方を照らしながらみると，若干の混乱をきたす可能性がある。しかしながら，用語解説で複数の元号が出た場合には，それぞれの元号の後に西暦を並列しているので，ある程度の混乱は避けられるようになっている。

日本で翻訳，出版された本書は台湾に関する有益な事典であることには間違いない。また，本のサイズも持ち運びに良い大きさになっているため，これから台湾に関する研究を始めようとする人には是非手元に置いてもらいたい一冊である。しかし，本書の原著は副読本として出版されたものであるために，本文は文章しか書かれておらず，付録を除いて，地図，図表，画像はまったく掲載されていない。日本語訳でもその点は踏襲されている。日本語訳出版の際には，副読本とは違った，台湾に関する総合的な歴史事典として，必要な地図や画像なども取り込んだものであれば，より良い事典になっていたのではなかろうか。

（アジア経済研究所新領域研究センター）